10月の道内景況 情報連絡員レポート

様々な経費の高騰が経営を圧迫、人材不足で需要に対応できない面も。

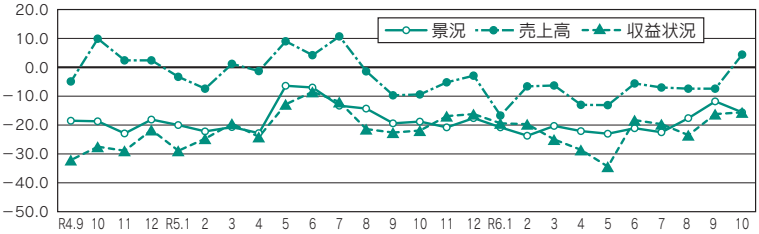
概 況

前年同月との比較では、「売上高」は上昇したが、「景況」、「収益状況」は低下している。

9月から10月の推移では、「売上高」、「収益状況」は増加したものの、「景況」は減少した。

情報連絡員によると、製造業では、原材料・電力料金等の高止まりが依然として続いていることから、最低賃金の引き上げや若年層の人材不足など、今後の経営状況を不安視する声が寄せられている。非製造業では、道外からの観光客や外国人観光客は増加しているものの、地元客の客足は伸び悩んでいるとの声のほか、消費者の節約志向や人口減少による収益の伸び悩みへの影響についても声が寄せられた。また、技術職やドライバー不足から需要への対応ができていないといった報告もあった。

主要DIの推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比
業界の景況	△11.8	△15.6	△3.8 ↘	△15.0	△23.3	△8.3 ↘	△10.4	△11.7	△1.3 ↘
売上高	△7.4	4.4	11.8 ↗	△5.0	△6.7	△1.7 ↘	△8.3	10.0	18.3 ↗
収益状況	△16.2	△15.6	0.6 ↗	△10.0	△13.0	△3.0 ↘	△18.8	△16.7	2.1 ↗

	全業種			製造業			非製造業		
	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比	9月	10月	前月比
販売価格	30.9	32.2	1.3 ↗	15.0	16.7	1.7 ↗	37.5	40.0	2.5 ↗
取引条件	△7.4	△6.7	0.7 ↗	0.0	3.3	3.3 ↗	△10.4	△11.7	△1.3 ↘
資金繰り	2.9	△2.2	△5.1 ↘	5.0	△6.7	△11.7 ↘	2.1	0.0	△2.1 ↘
雇用人員	△10.3	△18.9	△8.6 ↘	0.0	△16.7	△16.7 ↘	△14.6	△20.0	△5.4 ↘

（凡例） 30以上 10～29 9～△10 △11～△29 △30以下

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

食料品

● コロナ影響下の昨年に比べ順調に回復している。
・原料、水道光熱費の高騰への早急な対応が必要。 **（小樽）**

● 今年の秋鮭漁は10/28現在で北海道全体で前年比79%と減少。今年の鮭は小さめで魚卵も小さいことからいくら等の加工品も歩留り悪く、浜値の上昇とともに加工製品も大きく値上がりとなった。
・オホーツク海の鮭もほかの地域での漁獲量減少により、他からの買入れが強く、高値となっていることから、地元業者は必要以上に買わない姿勢となっており、当組合飼料原料となる鮭の加工残渣は大きく落ちている。 **（網走）**

● 麺類の価格改定は、春先に行われたところが多かったが原材料や輸送料、人件費等の高騰により利益率が低く業界の景況は悪化している。働き方改革、最低賃金のアップでさらなる値上げをせざるを得ない状況になっている。 **（全道）**

● 味噌出荷量（道内）；単月（令和６年９月） 前年対比 103.1%
累計（令和６年１月～９月） 前年対比 94.7%
醤油出荷量（道内）；単月（令和６年９月） 前年対比 107.0%
累計（令和６年１月～９月） 前年対比 95.8%
味噌出荷量（全国）；累計（令和６年１月～８月） 前年対比 97.2%
醤油出荷量（全国）；累計（令和６年１月～８月） 前年対比 100.0%
・令和６年９月の道内単月の出荷量は、前年対比、味噌・醤油ともに良かった。
・令和６年１月～９月の道内累計出荷量は味噌・醤油共に悪く、状況は好転せず。
・醤油製造企業では、漁獲量の減少による水産関連の「業務用しょうゆ」の荷動きを、また、味噌製造企業では、原料の一つである米の価格が、今後も高止まりするのではとの心配する声を聞いている。 **（全道）**

● カツオ、ブリ、フグなど本州以南の魚が獲れるようになり、新商品の開発など事業の転換点を迎えている。それに伴い、函館市が主導となって設備投資も進めている。
・特にイカが不漁で、さきいかなどは消費者の層も限られるため珍味のみを作っている会社は厳しい状況。
・函館市内は観光客で賑わっているが、どの業種も人手不足であり、技能実習生にも来てもらっているものの、若年層が地元から流出している。 **（函館）**

木材・木製品

● ９期のトドマツ原木の工場への入荷は、前月期同様落ち着いている。市況については、在庫が不足している状況になく、弱保合で推移している。また、国有林材のトドマツ一般材については、オホーツク、道央圏、道北では複数の応札があり、活発な動きが出てきている一方で、道南圏については、不落が続き出口が見えない。特に道南スギ、カラマツについては、全く動きがなく、供給過多となっている。原料材については、FITの影響から安定かつ高値安定で推移していたが、この４月以降価格が下降している。10期のカラマツ原木については、供給過多となっており、合板業界が、かなり苦しんでおり、しばらくはこのような業況が続くものと思われる。
・トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、新規住宅需要が前月に比べ減少しており、回復することは不可能に近い。産業資材も減少傾向で推移している。価格は弱気配～保合の状況にあり、カラマツラミナについても、減少傾向で推移している。また、市況はカラマツ、エゾ・トドマツは弱含みが見込まれる。なお、本州のスギが市況に入り込み、道内の市況を圧迫しつつあり、業界内では脅威に感じている。紙原料は、不足気味で原料材価格が上昇していたが、全体的に下降気味である。木質バイオマス原料については、順調に集荷されており、価格も高止まりの傾向から、下がり気味で推移している。
・道内製材業界は、主力製品である梱包材・パレット材のオーダーが大変厳しい状況下にあることから、一昨年から上昇した電力料金や各種諸資材、航送料金の値上げなどを、製材品価格に反映させることなく、自助努力により吸収してきたところであるが、そのような中、「2024年問題」（トラックドライバーの労働時間規制）によりトラックの手配に各工場が苦慮している。 **（全道）**

● 受注量の減少は底を打った感がみられる。急激に元に戻るとも思えないが、徐々に物の動きに回復の気配を感じる。 **（十勝）**

窯業・土石製品

● 10月の生コン出荷量はおよそ337千m³。（前年同月比101.0%）
・地域別には、前年同月を上回った分会は27分会中、12分会で前年（増加は８分会）を上回った。前年同月と比較して増加したのは道南、小樽、岩宇など。一方、減少したのは千歳、西十勝、苫小牧などであった。
・コンクリート舗装の普及拡大が必要。 **（全道）**

● 十勝地域では、公共事業の減少や民間需要の冷え込みから、砂利の売上や利益が減少しており、砂・砂利の在庫は増加している。
・道東や道北地域などでは、道央地域に比べ需要の落ち込みが大きく、業界の景況も悪化している。
・本道の社会基盤整備の充実に向けた天塩港の整備拡充（北海道開発局や道議会に要望中）。 **（全道）**

一般機器

● 組合員の一部は年末まで仕事が輻輳しているが、全体的には停滞気味。
・中小企業向けの安定的な行政サイドの発注、減税や補助金の拡大実施、中低所得者層への物価高騰対策や所得税控除・扶養控除（特に子育て世帯向け）の拡大実施、電気料金・ガソリン灯油代の補助額と期間の拡大、消費税等の減税実施等が必要。 **（札幌）**

● 小樽市内はインバウンドも含め、人流が特に休日は増えている。数年来の農作物が良かったにもかかわらず、運送用資材等の動きは良くない。資材（テント）は従来の石油価格に加え、防炎材がロシアや中国に依存しているということで10月１日より一斉に値上がり。
・石油価格の安定や政治の安定が必要と思われる。 **（全道）**

● コストアップの価格転嫁は、材料費などの直接費の転嫁は概ね順調だが、電気料、物流費などの間接費の転嫁は浸透しにくいのが現状。 **（旭川）**

その他

● 景況感は良くはないがそれなりに推移している。製品価格の値上げについては、一部のユーザーは決定してきているが、大手や農産物についてはこれからで難航している。
・時給1,500円よりも、優先すべきことや廃止すべきことがたくさんあると思う。 **（全道）**

● 造船業界の業況は、新造船の受注が順調で、室蘭製作所も函館造船所向け造船ブロック制作で非常に忙しい状態が続いている。国内造船所各社の手持ち工事量も３年程度確保されて先が明るい見通しだが依然として人手不足が深刻な状況で工程にも影響が出ている。 **（室蘭）**

非製造業

卸売業

● 販売価格の上昇に伴いユーザーの選別が厳しくなっており、利幅の少ない中で価格競争が収益の悪化を招いている。
・消費のカジュアル化によりビジネスノーマル製品の靴・鞄等は苦戦を強いられている。
・採用難で人員の確保が難しく離職も多いことから雇用人員は減少傾向。
・組合施設の貸会議室、展示室の需要は引き続き旺盛で過去最高の稼働率となっている。 **（札幌）**

● 令和６年衆議院選挙が終わり、政権与党の前議員が落選し、野党議員のみと

なった。地元経済界などの落胆は想像以上であり、今後の経済的な損失は計り知れない。（帯広）
- 令和６年 10 月期の当組合買付高は仲卸、荷受 1,492,326 千円（税抜）で、先月の９月期実績額 1,477,105 千円（税抜）より 15,221 千円ほど増加した。10 月は予想以上に生鮮価格高騰が進み、物量に比し、取扱金額が上昇したようだ。今後、年末需要期に向けて価格の推移を見守りたい。（道央）
- 当月の菓子卸は、価格高騰により、売上は伸長しているが、節約志向が強く、販売数量は伸長していない。ただ、お土産品を取り扱う企業は伸長している。（全道）
- 前月同様に、銅単価は高止まり傾向であり、設備資材全般に高騰が続いている。（全道）

小売業

- 前年比較　物販 94.1%、金融 95.5%
  - ・観光シーズンも終盤となり、観光客が減少し中心市街地の人通りは少なくなった。例年の 10 月と比較して気温が高く、秋物・冬物の需要が停滞している。業種別の前年比では旅行関連 194%・病院 109%・高速道路 107%と好調な一方、家電 77%・家具 81%・衣料品 85%の減少により、全体では前年割れとなった。（旭川）
- 10 月 27 日、『2024 フードバレーとかちマラソン』が帯広市内で行われた。ハーフ 3,390 人を含む計 5,463 人が道内外からエントリーし、沿道からの声援や拍手が送られる中、市街地を駆け抜けた。この大会は十勝の食も大きな魅力の一つで十勝グルメを満喫できる『食フェスタ』も行われ、今回はキッチンカーも含め約 25 店舗が並んで、参加者は走破後秋の味覚を楽しんでいた。昨年より飲食も解禁となり、十勝の食を堪能できる大会なので、来年も道内外からの参加を期待し、十勝の魅力を発揮できる大会になってほしい。（帯広）
- 従業員が不足しており、事業主にかかる負担が大きい中、最低賃金が上がったことで、扶養の範囲内で働いている従業員の労働時間が減り、さらに事業主の負担が増加した。年内で廃業を決めている事業所や、キャッシュレス決済割合が急激に増加傾向にある中、カードホルダーの減少が進むなど、当会の加盟店は減少はあっても増加することがほぼ期待できない中、今後の方向性をしっかりと定める必要性があると思っている。（日高）
- 10 月は、９月以上に中国人観光客が増加していた。中国人は買い物ではなく、食堂での食事と、魚屋で生ガニを茹でてもらい市場内で食べていく。毎日 40～50 人位の来場があるので、場内が賑わっているように見えるが、地元客が少なく各店の売上につながらない。（小樽）
- 10 月取扱高は、前年同月比 92％の状況。天候に恵まれ行楽地は観光客が増え、商店街にも賑わい良くなっていると感じるが、食品価格の値上げによる顧客の売上低迷の影響は大きいと感じる。（苫小牧）
- 人口減少や節約のため、販売数量、金額ともに落ちている。エネルギー業界は厳しい経営状況にある。（稚内）
- 10 月についてはどの業種も前年を割る取扱であった。10 月は食品の値上がりやコメ価格の高騰で、生活費以外の消費を極力抑えたのではないかと見ている組合員が多数だった。また、衆院選と同時に道議補欠選、釧路市長選も重なり慌ただしい月となり市長には若手の新人が当選、これまでの市政とは全く違った地域経済の活性化に期待する。
  - ・10 月の状況について、旅行業は、今夏より発売の川湯温泉とのタイアップ商品が年末に向け順調な動きを受け現在阿寒湖温泉とのタイアップ商品も企画中。携帯電話販売業については、新型スマートフォンの発売により取替販売は好調ながら他社からの切り替え販売には苦戦している。保険業は、折込チラシの実施で来店客数は微増、現在は法人契約獲得増に向け積極的に訪問営業を行っている。（釧路）
- 人材不足による雇用平均年齢の上昇、働き方改革等、営業時間にも影響が出ている。
  - ・小売価格上昇による不良債権化と代金回収に気をつけている。
  - ・地域格差により、地方の石油インフラから影響が出やすいので、緩和措置が必要。（上川）
- 今年も自転車の価格が上昇しているため売り上げが落ち込んでいる。特に、地方では年間に１台も売れなかったという店もあり、修理などで何とか商売を続けているという状況。（全道）
- 今月の“函館朝市”は、10 月 19・20 日（土・日）の日程で、全国各地の朝市関係者が一堂に会し、朝市文化の交流と発展を図る地域振興イベント「第 25 回全国朝市サミット 2024」に参加した。今年の開催地は青森県八戸市の「館鼻岸壁朝市」で、コロナ明け後５年ぶりの開催ということで、近況報告や各地での課題、そして、朝市サミットの更なる発展や朝市ブランドの向上について活発な議論を交わすことができた。特に能登半島沖での地震や大雨で現在も大変な状況が続く、輪島朝市の皆さんにもお越しいただき、改めて応援と親睦を深める事ができた。我々全国朝市サミット協議会では、今後もこのネットワークを活かしながら、各地の朝市での取り組みなども情報共有し、互いに知恵を出し合い支え合って“朝市”の元気とパワーでこの苦境を乗り越えていこうと強く団結した。（函館）
- 10 月はあまりイベントもなく、観光客も少なく売上は伸びなかった。秋鮭も入荷が少なく、特に生筋子は前年の倍近くの価格で、この期に漬けるお客様が少なく、単価のいい筋子の減で売上が伸びなかった。さんまも入荷はあるもののあまり脂がなく、大きいサイズは価格も高く推移した。（道央）
- 売上高 2,780 万、前年比 111%。値上げに伴い客単価の増加で推移している。（札幌）
- 10 月は、連休もあり観光客で賑わいをみせた。10 月 11 日に組合事業として、焼きたてパンのお店がオープンし、行列ができるほど来店者があり、今後も色々な企画をし、集客につなげたいと思う。11 月と 12 月に１店ずつオープン予定なので、期待したい。（釧路）
- エアコン需要で売上がアップしてきたが、10 月に入りエアコンも止まり、AV 商品、特に 50 型以上のテレビの売上が昨年より少し伸びたが、白物家電が減少し、前年との売上比較はほぼ横並びの状態。（全道）
- 小売の状況としては成約率が高めであり、小売価格も過去最高値をマークしている。新車の供給はまだ完全には戻っておらず、依然として中古車への需要は高止まりしている。また輸出もここ２か月ほどで値下がりしており、その分国内の需要を満たせるものの、いい車には需要が重なるため、結果として仕入価格も上昇している。また、メーカーもリース車両はすぐに納車するも、国内販売に対しては納車を渋る傾向にある情報もあったり、納車ルールに関しては不透明な部分もある。新車に関しても国内よりも海外に出すなど、国内の自動車状況は厳しいままである。
  - ・原発の再稼働を含めた、エネルギーコストの削減対策が必要ではないかと考える。（札幌）
- 一戸あたりの労働力不足で、この年の収穫は何とかできたが春作業の労働分散・省力化・高性能農業機械の導入等を考えていかなければならない。（全道）

商店街

- 網走市の発表の９月観光客の入り込み数は、市内ホテルの合計が国内客２万 8000 人で前年同月比で 11.7％増、外国人は 3500 人、同 6.9％増で全体で同 11.2％増と好調であった。（網走）
- 10 月共通駐車券の利用は、前年同月比 151.3%、買物共通バス券は、前年同月比 171.4%。共通駐車券は、利用増の傾向が続く。（帯広）
- 都心部を中心にインバウンドなどの観光需要が続いている商店街もあるが、市内商店街全体としては、様々な課題がスパイラル状につながっており、なかなかその出口が見えてこない。『物価高（エネルギー価格、資材、輸送費等）→人件費高→人が集まらない→人手不足→若い人がいない、育たない→事業承継が進まない→商店街の高齢化→デジタル化が進行しない→ SNS 等の活用が遅れている→販促が進まない→売り上げが伸びない』というスパイラルである。（札幌）

サービス業

- タイヤ交換等の季節的な業務量増加により売上は増加傾向。
  - ・人員不足も横ばいなため各社工夫しながら業務量をこなしている。（札幌）
- 今夏における受注業務額は、前年度に比べて全国レベルで 10%程度減少しているが、４月以降の累計総受注額は、20%程度増加している。しかしながら、資材・消耗品・燃料費・人件費が大幅に増加しているため、収益が大きく好転するまでには至っていない。また、関連業界も含めて業界全体の収益改善が進むためには、もう少し時間がかかると思われる。業務の発注金額は、市場単価をベースに 2010 年代半ばから人件費、2020 年代当初から現場調査費等が改善されているが、室内試験費等一部分野の単価改善が明らかに遅れており、業界を挙げて今後活発な活動が期待されるところである。（全道）
- 10 月１日から大人料金が 10 円値上げになったが、光熱費・消耗品等営業に係る経費が依然として大きく、営業収入にはなかなかつながらない様子。（全道）
- 千歳市で建設中の半導体製造工場や併せて進出する約 30 社の関連企業が拍車をかけて、半導体人材の争奪戦が激しさを増している。即戦力だけでなく道内の大学、高専、工業高校の新卒採用にも積極的だ。将来的に見てもさらに人材不足に陥ることは明らかなことから、産学官が人材育成への取組を加速強化しているが、一長一短での人材確保が難しいのが現実。そのため、必要な即戦力人材は高賃金を謳い文句にして道内中小 IT 企業から転職採用するケースが増えている。IT 企業側は離職直前まで状況把握が難しく防止に頭を悩ませている。システム開発案件は、企業の業務効率改善や生産性向上のためのデジタル化の進展で首都圏大手システム会社から受注打診が続いているが、人材不足で思ったように案件受注ができず、選別受注をせざるを得ない状況が発生している。道内中小 IT 企業は人材不足の解消、離職防止、高度技術人材育成という経営課題を抱えながら収益確保の難しい企業経営が続く。（全道）
- 道内客減少、道外・海外客増加により全体で前年 106.5%入込増。（十勝）

建設業

- 原材料費の増加は落ち着きの兆しも伺われるが、今後の推移には注視する必要がある。また、人件費の増加は続いており、収益への影響が生じているほか、雇用人員不足による事業への影響も出ており、新たな事業獲得が難しい状況にある。
  - ・４月からの働き方改革の対応に苦慮している。
  - ・技能実習制度から育成就労制度へ変わる情報の提供が必要。（札幌）
- 官庁工事については、第一四半期（４～６月）は入札不調が出ずに順調に発注されたが、第二四半期（７～９月）以降、電気工事はそうでもないが、設備工事で人材不足（技術者と技能者の両方とも）による不調が、目立ち始めた。９～10 月に道庁や開発局と業界団体との意見交換会があり、官庁側として、労務費は無理だが共通仮設費等を大幅に改善、週休２日工事を大幅導入、総合評価入札方式も参加しやすく要件緩和している等の説明があった。業界側からは、条件がいくら改善されても、技術者が居ない以上は近年実績のない官庁工事には参加が難しい旨を説明している。
  - ・民間工事では、建築費高騰の影響により、住宅やマンション等の工事発注が停滞、携帯電話設備の工事もモバイル各社の方針で設備投資が止まり、発注の多い分野と少ない分野の「二極化」がさらに進んでいる。携帯電話設備工事を主とする会社の廃業も起こった。一方で半導体製造工場の工事が佳境に入っているが、周辺地区において、製造業の工場、倉庫等物流施設、住宅、ホテル、店舗関係の工事の発注は旺盛である。
  - ・資材費、人件費高騰に伴う「価格転嫁」について、官庁工事については、共通仮設費等の大幅改善を進めてくれており、民間工事でも、やはり昨今のサブコン業者の減少もあって、価格に関する要望はある程度考慮してくれつつあり、僅かではあるが収益状況は改善しつつある気配。ただしこれは工事発注の多い分野において。
  - ・「働き方改革」について、官庁工事は「週休２日型」が今年から本格導入されているのと、民間現場について、ゼネコンによっては「隔週で土曜日閉所」等の改善は徐々に見られつつある。個別の工事において、工期を十分取っている工事は大丈夫だと思うが、きつい工期の現場は、やはり従来どおりの土曜日曜稼働が増えてくることが予想される。11 月以降の繁忙期について、従来どおりの「長時間労働をせねば工事が終わらない」という状況は変わらないのでは？と懸念される。
  - ・道内の電気工事においては、「照明器具の LED 化」と「学校等公共施設へのエアコン設置」を 2027 年までに終わらせねばならず、また、防衛予算も政府方針で倍増し、これも施設整備を今後数年のうちに行う予定で（かつ北海道は自衛隊施設が多い）、逆に 2027 年以降、特に 2030 年代には発注量が大幅に減ってくることも懸念されるので、各官庁は、長期的視野に立って、発注量の増減が少ない「安定的な工事発注」が必要。
  - ・また、「働き方改革」について、発注量が多い中で技術者が減っている以上、簡単には長時間労働を短縮できるような状況にはないので、「残業時間の上限規制」の法律の運用において、「柔軟な運用」も必要となる。（全道）
- 組合員が受注した公共工事は、秋の少雨により順調に推移し、ほぼ完了の見通し。また、除雪業務に携わる業者は準備に忙しいようである。
  - ・組合員においては、慢性化する人材不足による修繕工事の対応に苦慮している。市が発注する公共工事においては、令和７年度予算要求の時期を迎えているが、人口減少・自衛隊への給水が遅れるなど、事業収入が伸びず、事業予算の確保が厳しいことから公共工事の発注に影響が出そうである。上下水道料金の値上げの検討に入っており、経営審議会の審議状況を見守る状況にある。
  - ・コロナの罹患率は高く推移しており、加えてインフルエンザの時期も重なり厳しい状況が続いている。（名寄）

運輸業

- 農水産物の収獲量が平年並み程度だったため、荷動きが活発になった。運賃上昇分売上が増加している。
  - ・10t 車の長距離本州輸送は、時間管理面とドライバー不足により道内輸送へ移行している会社がある。
  - ・とにかくドライバー不足と時間管理のため自車及び庸車が足りずに需要に対応できていない。（全道）
- 今年は農産物の出来が昨年より良く、貨物の動きも順調に推移している。
  - ・一般カーゴについても半導体製造工場関連の貨物が増加しており、ユニック車が不足気味になっている。域内輸送も前年度より荷動きが良くなっている。（石狩）
- 売上高は、前年同月比（９月）　5.28%減少
  - ・乗務員数は、前年同月比（10 月）　2.7%減少
  - ・９月分チケット取扱高は、前年同月比　8.76%減少（旭川）